

「すみません、突然で失礼します。モデルさんのスカウトでお声がけしているんですが…少しだけお話よろしいですか？」

平日の休み。

たまには1日かけてショッピングしようと街をぶらついているときだった。

そう声をかけられ振り向くとそこには二人組の男性。

「え…？」

「いきなりですみません、雰囲気がとても素敵だったので声かけさせてもらいました」

驚いて立ち止まってしまったせいだ。

二人は私を道の隅にうまく誘導して囲んできた。

「雑誌ではないんですが、僕たち素人さんの写真や動画を撮ってまして…」

「数時間で終わります。もちろん報酬も出ますよ」

「はあ…、」

準備していたんだろう、すぐに出てきた名刺には会社の名前とカメラマンという単語と共に名前が書いてあった。

それから一人がタブレットに表示した画面。そこに書いてあった金額。

「こ、こんなに出るんですか？」

私の一ヶ月分の給料くらいの金額だ。

私が喰らいついたら彼らの態度も変わった。

「出しますよ！」

「とりあえず撮ってみませんか？嫌なことがあればすぐに止めますし、もちろん撮影自体そこで止めちゃってもいいので！」

その金額に目が眩んでしまったんだ。

どう考えても怪しいのに。

彼らに連れてこられたスタジオの隅。

小さなテーブルと椅子で話を聞いたあと契約書にサインすると、私は指定された服に着替えさせられた。

短いスカートに薄いニットのトップス。

こんなに短いスカート、自分では履かないから新鮮だ。

あと…気になるのが、スタジオのセット。

どう見ても電車だ。本物サイズの一両分の電車がある。この電車を使って撮影するんだろう。

「じゃあ始めましょうか！」

「可愛く撮りますからね」

促されてセットの電車に入る。

中は本物と見間違えるような作りで感動すらした。

始まった撮影はまずは写真だけ。

電車の座席に座ったり吊り革に掴まったり。

カメラマンに言われた通りにポーズを取り、おだてられながら表情を作り、またポーズを変えて…。

わけもわからず従っているだけだったけれど「この素人感がいいんですよ！」とか言われて撮影は続いていった。

それが数十分くらい続くと、何やら電車の外で音がし始めた。

首を傾げると

「気にしないでいいですよ！次の準備をしているだけなので」

と言われて撮影は続く。

けれど物音が増えてきていよいよ私は戸惑いを隠せなくなってしまった。

だって明らかに人がたくさんいる気配がする。

二人に尋ねようと口を開いたとき、一人の言葉でそれは遮られた。

「よし、じゃあ次は動画撮影に入りますね～」

「じゃあ皆さんよろしく願いしまーす」

その言葉のすぐあと。

電車の中に人が入ってきた。

「えっ、……っ、え??」

たくさんの男の人。

まるで一人で貸切状態だった車両に、人の多い駅でたくさんの乗客がなだれ込んで来るように。

男の人たちは車両の通路の真ん中に立っていた私を取り囲む。

「なんですか、これ！？」

「大丈夫、シチュエーション撮影ですよ！」

カメラマンもその人混みの中だ。見えなくなってしまうけどすぐ近くにいる。

見えないところからも撮っているらしい。

「ちょ、くるし……、押さないでください」

本当の満員電車みたいだ。

知らない人でもみくちゃになってしまった。

なんとか人と人の隙間を探り体勢を整えてもあらゆる方向から体を密着させられる。

「いいですよ、始めてくださーい」

カメラマンの声がして、

「え、何を…？」

私がそれに答えた、けれど、それは私に向けられた言葉ではなかった。

「あ…っ？」

カメラマンのその言葉を待っていたかのように周りにいる男たちは体を私に密着させ始めた。

前も後ろも右も左も、知らない男たちの体を押し付けられている。その年齢は中年から学生まで様々だ。

特に押し当てられているのは彼らの下半身だ。

腰を突き出し私の腰やお腹の辺りに擦り付けている。

あらゆる方向から押し付けられまともに立ってられない私はそのうち誰かの手に腰を掴まれていた。

そしてきっとその男のものだろう。

硬いモノが、お尻に擦り付けられている。

「うそ…、」

振り向こうとしても叶わない。

荒い呼吸がうなじにかかるのと同時に短いスカートを巻き込んでずりずりと当てられている。

「いいよ、その表情！そういうリアルに戸惑ってる表情が欲しいんだよ！」

斜め前からカメラマンの声が聞こえた。

それに何か言い返したい、でもその前に、更にその硬いものが増えた。

腰やお腹に当たっていたものも膨らんできて、腕にも見せつけるように当ててくる。

(みんな勃起してる…私、勃起ちんぽに囲まれてる…)

周りのちんぽが勃起していくほど周りの呼吸の音も大きくなっていった。

異様な空気だ。

私は電車(のセット)の中でちんぽを勃起させた知らない男の人たちにもみくちゃにされている。

(最初からこれを撮るための撮影だったんだ)

簡単についてきてしまった恥ずかしさと居た堪れなさで顔が熱くなっていく。

その思考を止めるように、私の足に手が這った。

「…！」

大きな男らしい節くれだった手。

それが内ももを撫でて私の股間まで上がってくる。

驚いて下を向いたことでそれが周りにも伝わったんだろう、他の手も私に向かって伸びてきて足や腕、それから服の上から胸まで触られ始めてしまった。

(私、こんなことするつもりじゃ…。そうだ、嫌なら途中でやめてくれてるって言ってた、今ならまだ…！)

すり♡♡♡

「っ、」

足の間にあった手が指を一本曲げて、私の下着のクロッチ部分を撫でた。

その指はその部分を往復して撫で、少し手前までずれてきて、

すり♡すり、すり♡

クリトリスまで撫であげる。



「うわっ」

「クリ、弱い？」

すぐ耳元で声がした。

やっぱり腰を掴んでいる人のようだ。

すりすり♡

すり、すり、すり♡

布ごと絶妙な圧で撫でている。

その力加減と摩擦が、

「んっ、ん」

「気持ちよくしてあげるね」

すり、すり…♡

すりすりすりすりすり……♡♡♡

気持ち、よくて。

「んああ、…っ」

「大丈夫だよ、痛いことしないし、お姉さんは気持ちよくなっていればいいからね」

「あッ♡」

抱き直すようにお腹に腕を回され、耳まで食まれた。

お尻に食い込む男の腕、それを揺らしながら男は私のクリトリスを擦り続けている♡

すり♡すり♡すり、すり♡

「あ、あ、」

すりすり、すり♡すり♡

下着の中、神経が集中して過敏になってしまっていた♡

すり、すり、すり♡すりすり♡

クリトリスも主張するようにむくむくと膨らんでいく♡

「気持ちよさそうだね、もうちょっと強くしようか。おっぱいも良くして貰おうね」

「え、……っ、あ♡あ♡」

撫でていた指が立って、爪の硬い部分がクリトリスに当たり始める♡

さっきよりも強い刺激で擦られてる♡♡

それに体がビクつくと、今度は突き出してしまった胸を周りの男たちに乳首の位置を探るように揉みこまれた♡♡

「んや、あ♡あ♡」

「反応いいね。周り見てごらん、お姉さんが可愛い反応するからみんなちんぽ勃起させてるよ」

そう言われて顔を上げるとギラついた男の人たちの顔がみんな私を見ていた♡

目線を落とすと服の上からでも分かる膨らんだ股間、それを擦る人たち、見せつけるように突き出してくる人たち、それぞれが興奮したように息を漏らしている♡

「みんなに見せてあげよっか、お姉さんがイくところ」

そこで男の指が、

さりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

さりさりさりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

激しく動く♡♡♡

「んッ、んあ、あッ♡♡」

布ごとクリトリスを搔かれてる♡♡♡

膨らんで敏感になってるのに摩擦は強くなって、振動

させられて♡

乳首も服ごと挟まれて、すりすり♡と左右にこねられた♡♡♡

さりさりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

すりすり♡♡すりすりすりすり♡♡♡

「あっ、あ♡あん♡あ♡♡」

「体ビクビクだ、これ気持ちいいんでしょ？イクまでこうだからね」

さりさりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

すりすり♡♡すりすりすりすり♡♡♡

「っ♡あ♡う、っ♡だめ、…っ♡♡」

「パンツの上からクリカリカリされて、服の上から勃起乳首こねこねされて、気持ちいいねー」

腰を抱かれたままクリトリスを搔かれ乳首をこねられ、足にはいくつもの手が這い、首筋には両側から知らない顔がそこの匂いを嗅ぐようにおさまっている♡

特にクリトリスと乳首を責める指は私を追い詰めるように、余計な思考を働かさないように規則的に動き続けた♡

(あ♡あ、っ♡や、ばい……♡♡♡)

休むことのない責めに足が突っ張っていく♡

「あッ♡あ、は♡♡っん♡♡ん、うっ♡♡うー……♡♡」

(気持ちよくなっちゃってる…♡♡♡勃起ちんぽに囲まれて乳首とクリいじられて♡♡撮られてるのに知らない人たちにイカされる…！♡♡♡)

さりさりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

すりすり♡♡すりすりすりすり♡♡♡

さりさりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

すりすり♡♡すりすりすりすり♡♡♡

「あッ、あ、あッ、あっ♡♡♡♡」

「おっ、体が強張ってきたね」

「……ッ♡♡♡♡あん、っ♡♡あっあ♡」

「みーんな見てるよ、お姉さんがイくところ」

クリトリス、パンパンになってる♡♡

その勃起を布を隔ててるからって爪の先で強く擦られて…♡♡

乳首だって服の上から挟まれてわざとらしい鈍い刺激でこねられて♡♡♡

さりさりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

すりすり♡♡すりすりすりすり♡♡♡

さりさりさりさりさりさりさりっ♡♡♡♡

すりすり♡♡すりすりすりすり♡♡♡

「い、っちゃう…、ッ♡♡♡♡う、あ♡♡♡あ” ……  
……ッ” !!!♡♡♡♡♡♡」

ガクッ…♡♡♡♡♡

絶頂に体を曲げる♡

その瞬間に誰かが足元に潜り込んできた♡

それと同時にずり下ろされた下着、その男はスカート  
の中に頭を突っ込み私の腰を両手で掴む♡

「はあ♡」と興奮したため息が聞こえてすぐ、そこにし  
ゃぶりついてきた♡♡

ぢゅ……っ!!♡♡♡

「んア” ッ♡♡♡」

ぢゅるる、ぢゅるるるっ!!♡♡♡♡♡

クリ、吸われてる…♡♡

いったばかりの敏感になってるクリ、思いっきり吸われて震わされて♡♡♡

「あゝ…ッ！♡♡あ、っうあ、あッ♡♡♡」

私はピンと爪先立ちになったままそれを受け止めるしかなかった♡♡

「リアルな表情を撮りたかったけど…なんかいい顔になってきちゃったな」

「これはこれでいいんじゃない？」

スカウトしてきた二人の声が遠く感じる♡

ぢゅっ♡♡♡ぢゅるるるッ♡♡♡♡

ぢゅるっ♡♡ぢゅるっ♡♡ぢゅるっ♡♡

「あゝッ、んあああっ♡♡♡」

ぢゅるるるるッ♡♡♡ぢゅるる…ッッ！♡♡♡

クリトリス、離してくれない♡♡♡

ずっと強く吸われたまま、ときどき唇で震わされる♡

♡♡♡

ぢゅるるッ！♡♡♡ぢゅるるッ！♡♡♡ぢゅるるッ！

♡♡♡

「だ、め…っ♡♡♡イったばっか、なのにい…！♡♡♡  
♡♡」

「俺にも触らせろ」

「こっちにもよこせよ」

私から漏れる声が大きくなると周りの男たちも入れ替わっていった♡

偽物の満員電車の中で乗客たちがまたもみくちやになる♡

周りにいた顔が変わり、また彼らの欲のままに身体中をまさぐられた♡♡♡

「ふあっ♡♡あッ♡♡アん♡♡♡」

耳をしゃぶられ、

「う、あ♡あ♡♡♡あ、はっ♡♡」

髪匂いを嗅ぐように鼻先を埋められ、

「ッ、ふ、う♡♡♡ん” …！♡♡」

服の中に突っ込まれたいくつもの手が乳首を探り、

「あッ♡♡♡ああ、っ♡♡あ♡♡♡あ♡♡♡」

お尻を揉みしだかれながらクリトリスは強く吸引される♡♡♡

周りの男たちが入れ替わっても後ろから私の腰を抱く



腕は変わらなかった♡

その男がまた私の耳に顔を寄せた♡

「また体に力入ってきたね、もうイきそう？クリフェラされてイっちゃう？」

バレてる♡♡♡

イったばかりの敏感になってるクリトリスをしゃぶられてもう気持ちよくなっちゃってるのバレてる♡♡♡

スカートの中からする吸引の音は男たちの興奮した吐息に混じって辺りに響いていた♡♡

ぢゅるっ！♡♡♡ぢゅぶ、ぢゅぶぶっ♡♡ぢゅるるるッ♡♡♡♡

「だって、こんな…♡♡ずっとされたら、……ッ♡♡♡♡」

「いいんだよ、お姉さんがイくところまたみんなに見てもらおうか」

そこでクリフェラしている男の動きが変わった♡♡

れるっ♡♡

唇がクリトリスを解放し、尖らせた舌がその小さな粒を弾く♡♡

れるれるれるれるるっ♡♡♡

れるれるれるっ♡♡♡れるれるれるれるるっ♡

♡♡♡♡

「んうう…っ！！♡♡♡♡♡」

さんざん吸われて脈打ってるのを感じてしまうほど過  
敏になったクリトリスを♡♡♡

湿った舌で弾かれてる♡♡♡♡♡

れるれるれるれるる…！！♡♡♡♡♡

れるれる…♡♡れるお…♡♡♡♡

……れるれるれるれるるれるるれるる！！♡♡♡♡

♡

私の腰を強く掴み緩急をつけてクリトリスを刺激する  
舌に私はたまらなくなっって背中をしならせた♡♡

「んあ” …ッ！！♡♡♡♡♡あっ、あッ♡♡や、あ” …  
！♡あァアア！！♡♡♡♡♡」

その小さな神経の塊から、また気持ちいい感覚が全身  
へ広がっていく♡♡

焼けるような熱さが溜まって、いっぱいいっぱいにな

って♡♡♡

れるれるれるれるる！！♡♡♡♡♡

れら♡♡れら♡♡れるれるれるれるるッ♡♡♡♡♡

れろれろれろれろれろれろれろれろれろっ！♡♡♡

♡♡

「…ふ、うゝ、うっ！♡♡♡♡♡や、あ、……イっちゃ  
う、………～～～～っ！！♡♡♡♡♡」

そこでまた♡♡♡♡♡

その男は震わされていたクリトリスに強く吸い付いた

♡♡♡♡

ぢゅ～～～～～～～～～～ッッッ！！♡♡♡♡♡

♡

「ん お………！！！！♡♡♡♡♡♡」

とんでもない刺激に体が伸びる♡♡♡♡♡♡

その唇はそのまま何度も吸い付いて、緩めて、吸い付

いて、唇で刺激して♡♡♡♡♡

「イクっ、イク……！！♡♡♡♡♡♡んあ” あああああ  
ッッッ！！！！♡♡♡♡♡♡」

私はその唇にクリトリスを押し付けるように腰を突き  
出して絶頂した♡♡♡♡♡♡

「もういいだろ、脱がしちゃえ」

誰かがそう言ってニットを頭から抜き取り、スカートを  
床に落とした♡♡

立て続けにイカされてぼーとした頭はそれに反応す  
ることもできずただ脱がされてしまった♡♡

背中ホックを外されるブラジャー♡それを腕から抜  
かれたところでなんとか我に返って胸を隠すように抱え  
たけれど、それをさせまいとするように後ろから腕を羽  
交い締めにした♡♡♡

勃起したままの乳首を突き出させられている♡♡

裸になった私にすぐ手が群がってきた♡♡

すり♡♡

指で乳首を掬い取られ♡

くに♡♡くりくり♡♡くに♡♡くに♡♡

服を隔てないそれを勃起させるように乳輪から先端まで撫でて♡

ちゅ♡♡ちゅう♡♡ちゅぶ、ちゅっ♡♡

もう片方は優しく何度もキスされてから♡

れるっ♡♡れる♡♡れる♡♡れるるる…♡♡♡

舌で転がされた♡♡♡

「んっ♡♡お♡♡♡…ん”、ん♡♡♡」

その間も他の手は私の胸の感触を味わうように揉み、吐息混じりの唇で耳を食み、舐められる♡♡♡

(嫌ならやめてくれるって、言ってた……)

されるがままになっている私♡♡

後ろから片足を抱え上げられ無防備なおまんこを周りの男たちに見せつけられてもされるがままだ♡

濡れたそこを見て周りから歓声が上がる♡♡

誰かの手が伸びてきて指を愛液で濡らすと、

くちゅ、ちゅ♡♡♡♡♡

ぬかるんだそこへ二本、挿入してきた♡♡♡  
その指は入り口すぐの上側を軽く押しながら、

くちゅっくちゅくちゅくちゅっ♡♡♡♡

動き出してしまった♡♡♡♡

くちゅくちゅくちゅくちゅっ♡♡♡♡♡  
「…おっ♡♡♡お♡♡あ♡っ♡ああッ♡♡♡」

小刻みに前後する指♡♡  
一気に中が熱くなっていくのが自分でも分かる♡♡♡  
♡♡

くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅッッ！！♡♡  
♡♡♡♡

私の反応を見てさらに早くなった♡♡♡♡♡

くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅッッ！！♡♡  
♡♡♡♡  
「おッ♡♡お♡♡♡お♡お♡お♡お♡んお♡♡♡♡」

(言えない♡♡♡♡♡嫌なんて言えない、言ったらやめ

られちゃう♡♡♡♡♡)

くに♡♡くに♡♡くりくり♡♡♡くにくに、くに♡♡♡

ちゅっ♡♡ぢゅぷ♡♡♡れるれるれる♡♡♡れられられら…♡♡♡

乳首を指で可愛がられ、吸われ舐められて♡♡

くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅッッ！♡♡♡♡♡

おまんこは優しく圧迫されながら揺らされる♡♡

「お♡♡お♡っ♡♡♡お”♡♡ッ”♡♡♡ほ、っお♡♡♡オ”ッ♡♡♡♡」

「おまんこ気持ちいい？」

後ろからそう聞かれて、私は素直に漏らした♡♡♡

「い、いいっ♡♡これ気持ちいい…！♡♡♡♡」

そう口にする则ち感覚が研ぎ澄まされて余計に気持ちよくなる♡♡♡♡♡

くりくりくり♡♡くにっ♡♡くに♡♡くりくりくり♡♡♡

れられられらあ♡♡♡♡♡れるるるるるっ♡♡ちゅっ、  
ちゅうう…！♡♡♡

くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅッッ！！♡♡  
♡♡♡♡

「あ”ッ♡♡♡あ〜〜〜〜〜ッッ♡♡♡♡♡またイっち  
ゃう、…ッッ♡♡♡♡♡どんどん敏感になって、……ッ”  
お♡♡おほっ♡♡♡」

「しっかり足持っててあげるからね。イキまんこみんな  
に晒そうね」

くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅッッ！！♡♡  
♡♡♡♡

くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅッッ！！♡♡  
♡♡♡♡

またスピードを上げたおまんこを揺らす指♡♡  
しかも親指がクリトリスに当てられて♡♡

ぐりゅぐりゅぐりゅぐりゅぐりゅぐりゅッッ！！♡♡  
♡♡♡♡

おまんこを揺らすのと同じリズムでクリトリスをこね  
るから♡♡♡♡♡



「んお …！！♡♡♡♡♡♡おッッ、ダメっいく！！♡♡♡♡♡♡いく……………！！♡♡♡♡♡♡んお…………ッッ！！♡♡♡♡♡♡」

私はついていた片足を浮かせるほど、男の腕の中でのけぞって絶頂した♡♡♡♡♡

（いろんなところ一緒に気持ちよくされるのってこんなに気持ちいいんだあ…♡♡♡♡撮られてるって分かってるのに止められない♡♡♡体がどんどん敏感になって終わらなくて♡♡♡♡♡）

「あ、…ッ！？」

ゆっくり足を下ろされたと思った♡

でもすぐに両膝の裏を腕で担がれ体が浮いた♡♡後ろにいた男が私を担ぎ上げてしまったんだ♡♡♡♡

周りに見せつけるように思いっきり開かれたおまんこに視線が集中している♡♡

恥ずかしいのにヒクヒクと蠢いているのが自分でも分

かる♡♡

「今度はおまんこ気持ちよくしてあげるね〜♡」

その私の前に出てきた若い男♡

既に露出したちんぽはすっかり大きく太く反っていて、  
それをしごきながら私のおまんこの入り口に亀頭を当て  
た♡♡♡♡

「あ♡あ…、」

ぬぶ♡♡♡ぬちゅ♡♡

ゆっくり埋められたちんぽの先♡♡

ぬちゅ♡♡♡ちゅ♡♡♡

それがおまんこを広げながら入ってくる♡♡♡♡♡

ちゅ、ぶ♡♡♡

ぐちゅ♡♡

「うあ……ッ♡♡♡♡♡」

奥へ到達するとお腹の奥からじんわりと熱い気持ちよ  
さが広がった♡♡

それにじっとしていられなくて私は体を縮こませる♡  
♡♡

「いい具合だよ、君のおまんこ♡♡」

ぐちゅっ♡♡

とぷっ♡♡♡とちゅっ♡♡

「ん` お、お♡♡♡」

奥を小突くように、そのちんぽは動き出した♡♡♡♡  
♡

とちゅッ♡♡とちゅ、とちゅ、とちゅっ♡♡♡

「おッ♡♡ん、っ♡♡♡あ♡あ♡♡」

とちゅ♡♡とちゅ♡♡とちゅ♡♡とちゅ♡♡

「ん♡♡♡お♡お♡お♡♡♡」

とちゅとちゅとちゅ…っ♡♡♡とちゅとちゅとちゅと  
ちゅっっ♡♡♡♡

「お、お、おおお`、っ♡♡♡♡……っ` ツ`♡♡♡♡  
んあッッ♡♡♡」

私の反応を見ながら動いていた腰は明らかに一点を狙  
い始めた♡♡

ちんぽがぶつかると締めちゃうところ、バレてる♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅッッ♡♡♡♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅッッ♡  
♡♡♡♡

「お” ツ、お、お、っ♡♡♡♡♡んやっ、あ” ツ、そこ、  
……ッ！♡♡♡♡♡」

体を男の腕に預けて私はそこへ意識を集中させてしま  
っていた♡♡

男二人に挟まれ体を奪われておまんこの気持ちいいと  
ころを突かれる♡♡♡

快感に引きずられるように目を閉じていると、大きな  
手のひらが私の両胸を包んだ♡♡

目を開けたときには右の乳首が男の口の中へ♡♡

左の乳首はまた別の男の指に乳輪ごと挟まれる♡♡

ぢゅぷ♡♡ぢゅ、ちゅるっ♡♡♡

ぢゅっ♡♡ぢゅっ♡♡ぢゅっ♡♡

片方は吸われ♡

シコシコっ♡♡♡シコシコシコシコッ♡♡♡

片方はまるでちんぽにするみたいに根元から先端へ指  
の腹でしごかれた♡♡

「ッッおほ……！！♡♡♡♡♡♡」

おまんこの奥にじんわり広がっている快感とは真逆の、  
背中から頭のとっぺんまでビリビリと響くような乳首へ

の刺激に目を見開く♡♡

「あ～～、まんこ締まる♡♡♡」

男はそう呟くとさらに強くちんぽをぶつけ始めた♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅッッ！

♡♡♡♡♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅッッ！

♡♡♡♡♡♡

「おッ♡♡あ”、あっ♡♡♡んお、お”♡♡おッ♡♡♡  
お”ッオオ！♡♡♡」

後ろの男の胸に背中が押しつけられ、体が揺れる♡♡

♡

私はやり場のない手を誰かの指に絡めながらその衝撃  
に耐えるしかなかった♡♡

ぢゅっ♡♡ぢゅるるッ♡♡♡ぢゅうッ♡♡♡♡

シコシコっ♡♡シコシコシコシコッ♡♡♡♡

勃起促進するように吸い上げられ、指で圧迫しながら  
上下される乳首♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅッッ！

♡♡♡♡♡♡

乳首への刺激に縮こまったおまんこをひたすら突くちんぽ♡♡♡♡

「お” ツツ、ほおおお！♡♡♡♡…これ、すご……！♡♡♡♡んおっ、お” ツ♡♡きもち……！！♡♡♡♡♡♡」

ぢゅるるるツツ♡♡♡♡ぢゅ…ツツ！♡♡ぢゅうう……ツツ！！♡♡♡♡♡

シコシコシコシコシコシコっ♡♡♡シコシコシコツツ、シコシコシコシコツツ♡♡♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅツツ！♡♡♡♡♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅツツ！♡♡♡♡♡♡

快感に夢中になっていく私を見て息を荒げる周りの男たち♡

中にはちんぽをすごいている人もいて、自分がおかずになってしまっていることを自覚させられる♡♡♡♡

そのうち誰かがちんぽに跳ねる私の足を手に取り指を舐め始めて♡

「……ッ！♡♡♡♡お” ツッん♡♡♡んっん♡♡…お”、  
お、ツ” ツ”、い、く……う♡♡♡♡♡」

体内で一気に膨らんでいく絶頂感♡♡♡♡♡

ぢゅうううッッ！！♡♡♡♡ぢゅ〜〜〜〜〜ッッ  
！♡♡♡♡

シコシコシコシコシコシコシコシコッッ！！♡♡  
♡♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅッッ！  
♡♡♡♡♡♡

とちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅとちゅッッ！  
♡♡♡♡♡♡

「いくっ、いくいくいくいく！！♡♡♡♡♡……ん”  
う、うううううッッ！！♡♡♡♡♡♡♡♡」

男の腕に支えられながら、それでも浮いていた体は激  
しくビクついた♡♡

お尻の方へ滴った汗が床へポタポタと垂れていく♡♡  
♡♡♡

視界の端、スカウトしてきた二人が手で男たちに何か  
合図していた♡

彼らも興奮した顔をしている♡

それはすぐに人波に消え、

「こっちにも回せよ」

「俺ももう我慢できないって」

という声があちこちから聞こえると、私の体はどこからともなく伸びてきた腕に引っ張られてしまった♡♡

周りの男たちにぶつかりよろけそうになってまた違う誰かにしがみつく♡

いったばかりの体でしっかり立つのは難しい、でもその体を誰かに掴まれて♡♡

どちゅっ！！♡♡♡♡♡

「ふお」……！！♡♡♡♡♡

体勢を整える前に後ろからちんぽを突き入れられてしまった♡♡♡♡

顔の见えないそのちんぽは私の腰を掴むとすぐに激しく動き始める♡♡♡

どちゅっ！♡♡♡どちゅっ！♡♡♡どちゅっ！♡♡♡  
どちゅっ！♡♡♡どちゅっ！♡♡♡



「お”っ♡♡お”ッ♡♡オっ、オ♡♡…！♡♡♡……ッ  
”あ！♡♡♡」

斜め下から強く、勢いをつけて突いてくるちんぽ♡♡  
どちゅっ！♡♡♡どちゅっ！♡♡♡どちゅっ！♡♡♡  
どちゅっ！♡♡♡どちゅっ！♡♡♡

「んお、お”♡♡こんな、れんぞく、で……ッ♡♡♡♡  
♡…ん”っ、ん……！♡♡♡♡」

■続きは製品版にて♡